

農林水産統計今昔

■ 昭和15年農産物生産費調査(雑穀) ■

九州農政局で保管されている最も古い統計書（昭和15年農産物生産費調査（雑穀））です。調査対象品目や取りまとめ項目は時代を感じますが、現代とおおむね同じ項目になっています。調査方法等は現在の調査方法と異なりますが、当時の農業形態や背景がみえてきます。



面積の単位が「反」（現在は「a」、「ha」）、重さの単位が、「石」（現在は、「kg」、「t」）となっています。
また、価格の単位が円以下（銭）で記載されています。

数量									
品名	単位	数量	単価	生産費	消費費	販入費	販出費	貯蔵費	合計
大豆	石	0.87	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

畜役費									
品名	単位	数量	単価	生産費	消費費	販入費	販出費	貯蔵費	合計
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

調査項目は、「種苗費」、「肥料費」、「薬剤費」など今の調査でも使用している項目もあるけど、「畜役費」なんて項目もあるようです、今は「農機具費」ですね。

調査品目 「粟（あわ）」や「燕麥（えんぱく）」など、今ではあまり栽培されていない作物も当時は調査していたようです。

資料：帝国農會調査部「作物統計」昭和17年11月発行

■ 現在の調査結果と比較 ■



昭和15年では、「家族労働費」が約4割を占めていますが、令和3年の「労働費」は約2割と半減しています。
それに変わって、作業委託費の「賃借料及び料金」が増加しています。
また、「畜役費」に変わって「農機具費」の割合が多くなっています。



()の額は、大学卒初任給で試算
昭和15年 80円
↓(約2,800倍)
令和3年226,700円

※ 昭和15年の調査は、現在(令和3年)の調査方法とは異なることから、単純に比較は出来ませんが参考として掲載しています。
また、年内給生産要素費用から、費用合計に含まれない資本利子を除くと 25.55円(7万1,540円)となります。

農林水産統計の役割

農林水産統計は、農林水産行政を支える「情報インフラ」として、食料・農業・農村基本計画等の各種計画に基づく**政策目標の設定や評価**、各種作物の**需給安定対策等の発動基準**、国の**財政支出の算定根拠**、**農林水産業の現状の分析**などに広く活用されています。

また、「**公共財**」としての役割を担っており、国民の皆さんが自由に利用することができます。

公共財としての農林水産統計

日本の農林水産業の実態はどうなっているの？

自給率が低くても大丈夫？
今年のコメは不作なの？

農業の課題はなに？
農業経営体数や農地などの状況は？

生産だけの経営から、
製造加工・販売を加えた事業展開が増えているのかな？



- どんな農畜産物が作られているの？
- 農地はどのくらいあるの？

- 農業経営体の数はいくつ？
- 農業従事者の平均年齢は？
- 森林の面積は？

- 農産物を生産するのにいくらかかるの？
- 農業の収入はどのくらい？

- 6次産業化は進んでいるの？
- 売上げや従事者数はどのくらい？

誰でも利用できるよ、農林水産統計を見てみよう！

◆作物統計調査(R6年、九州)

耕地面積 : 502,400 ha
耕地利用率 : 101.8%(R6年)
水稻収穫量 : 703,000t
水稻10a当たり収量 : 489 kg

◆畜産統計調査

(R7年2月1日現在、九州)

肉用牛 飼養戸数 : 14,800戸
飼養頭数 : 956,300頭

◆農林業センサス(2020年、九州)

農業経営体 : 164,560経営体
基幹的農業従事者数 : 224,672 人
基幹的農業従事者平均年齢 : 66.4 歳

林野面積 : 2,674,630ha
林野率 : 63.3%

◆農業経営統計調査(R5年、九州)

営農類型別経営統計
(全営農類型平均1農業経営体当たり)
農業所得 : 1,186千円
米生産費
(個別経営資本利子・地代金額算入生産費)
60kg当たり生産費 : 16,695 円

◆生産農業所得統計(R5年、九州)

農業産出額 : 1兆9,226 億円

◆6次産業化総合調査(R5年度、九州)

農業生産関連事業
総販売金額 : 4,143億円
総従事者数 : 5万2,000人

漁業生産関連事業 ※九州各県の合計値
総販売金額 : 561億円
総従事者数 : 8,300人

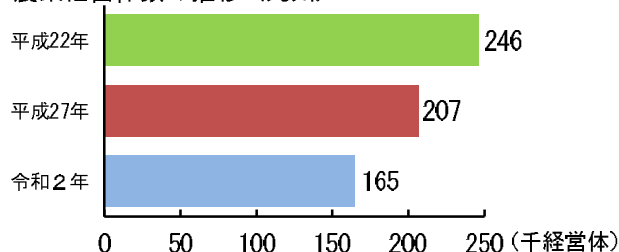


九州の農業

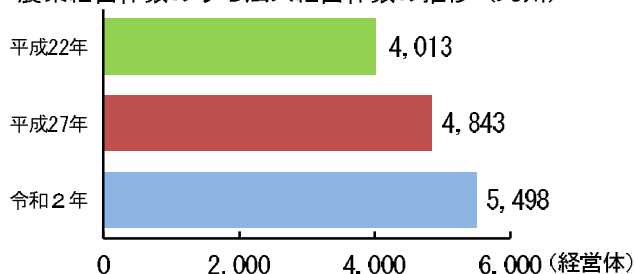
農業構造（農業経営体）

九州の農業経営体数及び基幹的農業従事者平均年齢の推移

農業経営体数の推移（九州）



農業経営体数のうち法人経営体数の推移（九州）

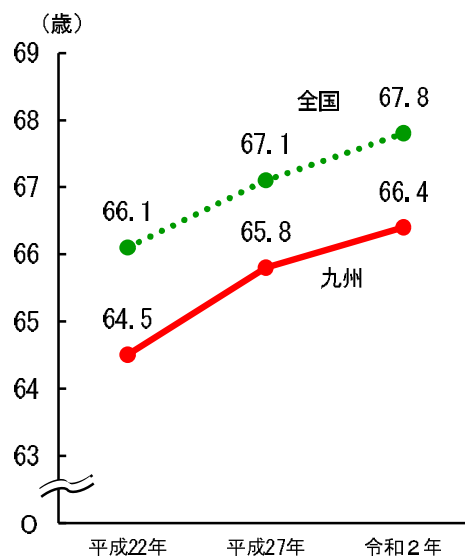


資料：農林水産省「農林業センサス」

注：基幹的農業従事者
基幹的農業従事者平均年齢
農業経営体
法人経営体

15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。
平成22（2010）年は販売農家の数値、平成27（2015）年、令和2（2020）年は個人経営体の数値。
経営耕地面積が30a以上の規模の農業、又は販売金額100万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。
農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

基幹的農業従事者平均年齢



九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は165千経営体であり、10年前に比べて約3割減少しましたが、法人化している経営体は1.5千経営体（37%）増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。



農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合

